

# 平成29年度全国学力・学習状況調査における萩市の結果概要について

萩市教育委員会

## 1 調査の概要

### (1) 目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 実施期日

平成29年4月18日(火)

### (3) 調査対象

小学校第6学年児童、中学校第3学年生徒

### (4) 調査の内容

#### ① 教科に関する調査 (国語、算数・数学)

- ・問題A ……主として「知識」に関する調査
- ・問題B ……主として「活用」に関する調査

#### ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

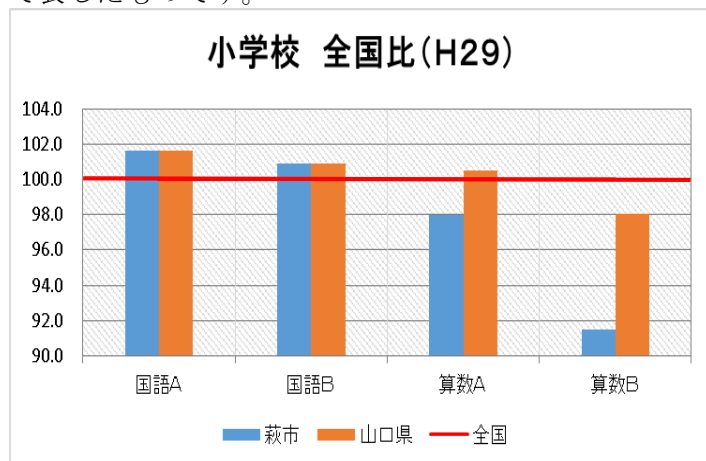
- ア 児童生徒に対する調査(児童生徒質問紙)
- イ 学校に対する調査(学校質問紙)

\*調査問題の詳細は、国立教育政策研究所の「平成29年度全国学力・学習状況調査の調査問題について」(URL <http://www.nier.go.jp/17chousa/17chousa.htm>)で閲覧することができます。

## 2 教科に関する結果

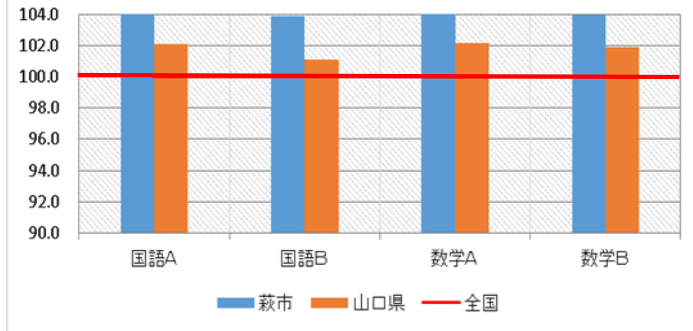
### 【萩市と全国の各教科平均正答率の比較】

次のグラフは、全国の平均正答率を100として、各教科における本市と山口県の結果をグラフで表したものです。



小学校では、全国平均正答率及び県平均正答率と比較すると、国語Aで全国平均を上回り、国語Bは全国平均とほぼ同じ、算数A・Bは全国平均を下回っている。特に、算数Bにおいて課題が見られる。

中学校 全国比(H29)



中学校では、国語A・B、数学A・Bのすべてにおいて、全国平均正答率及び県平均正答率を上回る結果となっている。

【各教科に見られる成果と課題】

●小学校

○：相当数の児童ができている点 △：特に課題がみられる点

【国語】

- 第5学年までに学習した漢字を読むこと
- ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いること
- △漢字を正しく書くこと
- △目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くこと
- △自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えること
- △物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめること

【算数】

- 具体的な問題場面において、乗法で表すことができる二つの数量の関係を理解すること
- 小数の乗法の計算において、乗数を整数に置き換えて考えるときの、乗法の性質を理解していること
- 示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを図に表現すること
- △資料から、二次元表の合計欄に入る数を求めることができること
- △直線の数とその間の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用すること
- △身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量に近いものを判断し、その判断の理由を言葉や式を用いて記述すること

●中学校

○相当数の生徒ができていいる点 △特に課題がみられる点

【国語】

- 文脈に即して漢字を正しく読むこと
- 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと
- 目的に応じて資料を効果的に活用して話すこと
- △事象や行為などを表す多様な語句について理解すること
- △表現の仕方について捉え、自分の考えを書くこと

【数学】

- 実生活の場面において、ある数量が正の数と負の数で表されることを理解すること
- 平行移動した図形をかくことができること
- 円錐が回転体としてどのように構成されているかを理解していること
- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ること
- △用語の意味を理解すること
- △事象や関係などを的確に捉え、理由や方法を数学的な表現を用いて説明すること

「特に課題がみられる点（△）」について、萩市の傾向や授業改善及び家庭学習のポイントをまとめました。

●小学校 国語

A：主として「知識」に関する問題 B：主として「活用」に関する問題

△漢字を正しく書くこと：国語A7(1)

【平均正答率 36.9%】

4年生のみなさんへ  
放送委員会  
委員会活動の体験のお知らせ

1 日時 2月19日（月）～2月22日（木）  
10時25分から10時45分まで

2 集合場所  
多目的ルーム

3 参加 たいしょう  
(1) 4年生の さほう者  
(2)

4 申し込み 期限と申し込み方法  
(3) 2月14日（水）までに申しこんでください。  
・ 事務室前に申し込み用紙と箱が おいてあり  
(4) ます。用紙にクラスと名前を書いて、箱に入れて  
(5) てください。

5 お願い  
・ 当日は、全員が体験できるように、放送委員の  
(6) 指示にしたがってください。

7  
部に漢字の読みをひらがなで、……部にひらがなを漢字で、それぞれに書いて書きましよう。

【正答】  
対象

他の漢字を書く問題に比べて、正答率が低くなっています。「対」「象」どちらも間違っている児童が約26%でした。

【学習のポイント】  
学年別漢字配当表に示されている漢字を、各学年において正しく読んだり書いたりし、各教科等や日常生活で使用する文や文章の中で適切に使うことができるように指導することが重要です。そのためには、学習した漢字を繰り返し書いて練習することのみならず、様々な場面で、漢字のもつ意味を考えながら、実際に文や文章の中で正しく使うことができるように学習することが大切です。

△自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えること：B3ニ 【29.0%】

二 「話し合いの様子」の中の……部ア・イの発言は、この話し合いの中で、それぞれどのような意図がありますか。最も適切なものを、次の1から4までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。

1 考えのもととなる文章中の表現を明らかにしようとしている。  
2 言葉の意味が理解できず、その意味を知ろうとしている。  
3 今まで出ていない考えを引き出そうとしている。  
4 自分の理解が正しいかどうかを相手に確かめようとしている。

【正答】 ア：1 イ：4

イに4と解答しているが、アに1と解答していない児童が約45%でした。

【話し合いの様子の一部】

横山 あまみさんの「きつねの写真」を読んで、心に残ったところはどこかな。  
原 (3)を示しながら「あたるの木が、いっせいにざっとゆれてまじました」というところで  
A 感じますと思ったんだけど。  
大岩 そうだね。 A こといえば、松ぞうじさんとび吉はきつねだったのかな。  
田中 二人を写したはずの写真にきつねが写っていたんだから、きつねだよ。  
原 どうからそう思うの？  
田中 (4)を示しながら「山野さんは、むかいあつたふたりをばりりとうしました」とあるでしょ。  
横山 そうだね。それに、(5)を示しながら「きつねの写真だ」と書いてあるしね。  
原 二人を写したはずの写真にきつねが写っていることは、やっぱりきつねなのかな。  
大岩 きつねだよ。他にもきつねって考えられるところはあんな。  
田中 (2)を示しながら「ここで、松ぞうじさんが「ついてきなせえ」と言っているところがあるでしょ。私は、ここからきつねってわかる気がするんだけど、どうかな。  
原 私もそう思う。松ぞうじさんは、きつねだからきつねのすんでいた穴の場所を知っていて、案内できたんだよね。田中さんの言いたいことはそういうことなのかな。  
田中 そうそう。  
横山 (1)を示しながら「人間にうちとられたり」と書いてあるけれど、もし、松ぞうじさんが本当に人間なら、「人間に」とか「うちとられた」とは言わないと思うから、松ぞうじさんはきつねだと考えることもできるね。  
田中 そこからも、松ぞうじさんがきつねだと考えられるね。他にも見つけたよ。

5 (話し合いが続く) 5

【学習のポイント】  
各自が考えたことが、どのように共通していたり相違していたりしているのかななどを明らかにしながら交流する機会を設定することが大切です。その時、「どこからそう思うの」「〇〇さんの言いたいことはそういうことなの」と質問するなど互いに補完し合うことによって、自分の考えを広げたり深めたりすることができるように指導することが考えられます。

△資料から、二次元表の合計欄に入る数を求めることができること：A **9**(2) 【53.2%】

家でイヌやネコを飼っているかどうかを、13人に聞いて、下のように記録しました。

左の記録を下の表にまどめます。

【正答】 1 3

飼っている動物調べ

出席番号	イヌ	ネコ
1	○	×
2	×	×
3	○	×
4	○	○
5	○	×
6	×	×
7	○	×
8	×	×
9	○	○
10	×	○
11	○	×
12	×	×
13	○	×

○…飼っている  
×…飼っていない

飼っている動物調べ (人)

		ネコ		合計
		○	×	
イヌ	○	ア	イ	
	×	ウ	エ	
合計				オ

○…飼っている  
×…飼っていない

(2) 上の表のオにあてはまる数を書きましょう。

「26」と解答した児童が16%でした。「家でイヌやネコを飼っているかどうか」を調査した人数の「13」を2回たしていると考えられます。

【学習のポイント】

二次元表の合計欄の数値と調査した人数を比較する場を設けることが考えられます。その際、合計欄の数値を26にした場合を取り上げて、そのように判断した理由について話し合い、合計欄に入る数値が調査した人数と一致することを確認することが大切です。

△身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量に近いものを判断し、その判断の理由を言葉や式を用いて記述すること：B **2**(3) 【6.9%】

月の直径を、硬貨の直径に置きかえて考えます。

1円玉、100円玉、500円玉の直径は、それぞれ下のとおりです。

硬貨の種類とその直径

1円玉	100円玉	500円玉
		
20 mm	22.6 mm	26.5 mm

(2) 「最小の満月の直径」を1円玉の直径としたときに、「最小の満月の直径」をもとにして14%長くなっている「最大の満月の直径」は、100円玉と500円玉のどちらの直径に近いですか。

下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、選んだ硬貨のほうが「最大の満月の直径」に近いと考えたわけを、言葉や式を使って書きましょう。

- 1 100円玉
- 2 500円玉

【正答例】

番号：1

わけ：最大の満月の直径は $20 \times 1.14 = 22.8$ で、22.8mmです。

100円玉の直径との差は $22.8 - 22.6 = 0.2$ で、0.2mmです。

500円玉の直径との差は $26.5 - 22.8 = 3.7$ で、3.7mmです。

100円玉の直径との差のほうが小さいので、100円玉の方が近いです。

無解答率が約16%でした。この問題以外でも、理由や方法を説明する問題の無解答率は、全国平均と比べて高い傾向にあります。

【学習のポイント】

一文にたくさんの情報が書かれているを読み取る力が問われています。指導にあたっては、「最小の満月の半径」を1円玉の直径に置き換えていること、さらに、1円玉の直径が基準量であることを捉え、「最小の満月の直径」を基にして14%長くなっている「最大の満月の直径」が比較量であることを確認する活動が考えられます。また、基準量・比較量・割合の関係を図を基に説明する活動を仕組むことも大切です。



△事象や行為などを表す多様な語句について理解すること：B9五 【36.5%】

「今回は結論がでなかったので、あとでもう一度話し合う」という意味の言葉を、漢字3字以内で書きなさい。

【話し合いの記録】

校内でのあいさつを活発にするための取り組み	
活動内容案	結果
1 標語やポスターの募集と掲示を行う。	可決
2 登校時間に校門の前であいさつや呼びかけを行う。	<input type="text"/>
3 下校時間に校門の前であいさつや呼びかけを行う。	否決

【正答例】 再検討、保留

3字以内という条件は満たしているものの、状況にあった適切な言葉を書くことができていない生徒が半数以上いました。

【学校や家庭では…】

学校生活の中での話し合いなど具体的な場面を想定し、その場の状況に応じた適切な言葉について考える学習活動が考えられます。また、各教科等の学習や読書活動をする中で出会った多様な語句を取り上げて指導することも効果的です。

△表現の仕方について捉え、自分の考えを書くこと：B1三 【46.0%】

【読書の記録】

書名 スコアレNo.4  
著者名 宮下奈都

〈心に残った一文〉

〈感想〉

三 吉田さんは、「本の紹介カド」にある「比喩を用いた表現」に着目して「本の一部」を読み、感じたことや考えたことをあとの「読書の記録」に書いています。あなたなら「読書の記録」の「心に残った一文」と「感想」にどのようなことを書きま

すか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 心に残った一文は、「本の一部」から、比喩を用いた表現が含まれる一文を抜き出し、書くこと。

条件2 感想は、条件1で取り上げた表現について、「誰（何）」の「どのような」様子なのかを明確にして書くこと、あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。

【正答の条件】 次の①②③の条件を満たして解答している。

- ① 〈心に残った一文〉に【本の一部】から比喩を用いた表現が含まれる一文を抜き出して書いている。
- ② 〈感想〉に、①で取り上げた表現について「誰（何）」の「どのような」様子なのかを明確にして書いている。
- ③ 〈感想〉に、①で取り上げた表現について、感じたことや考えたことを具体的に書いている。

誤答では、特に①の条件を満たさずに解答しているものが、②または③を満たさないものより多くありました。

【学習のポイント】

文学的な文章を読んで、感じたことや考えたことなどについて交流することは、自分のものの見方や考え方を広げたり、読書の楽しさを味わったりする上で重要です。例えば、印象に残った場面や描写を取り上げ、なぜその場面や描写が印象に残ったのかを具体的に説明する学習活動が有効であると言えます。その際、比喩や反復などの表現の技法についての知識を生かすなど、これまでの学習を踏まえた指導をすることも大切です。

△用語の意味を理解すること： A 9 【20.3%】 A 14(1) 【30.9%】

9 縦と横の長さの和が20 cmの長方形について、「縦の長さを決めると、それにもなって面積がただ1つ決まる」という関係があります。下線部を、次のように表すとき、 ① と  ② に当てはまる言葉を書きなさい。

① は  ② の関数である。

14 次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 次の記録は、ある中学校の生徒7人が反復横とびを20秒間行ったときの結果を、回数の少ない方から順に並べたものです。

記録						
40	46	47	48	53	53	56

(単位：回)

反復横とびの記録の範囲を求めなさい。

【正答】 ①面積 ②縦の長さ

無解答が約15%で、誤答の約26%は、①に縦の長さで解答し、②に面積と解答していました。独立変数と従属変数の理解が十分ではないことがわかります。

【正答】 16

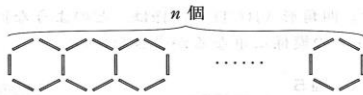
「40から56」と解答している生徒が約32%でした。数学用語としての「範囲」を日常用語としての「範囲」と捉えていると考えられます。

【学習のポイント】

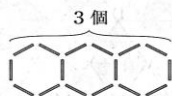
用語の意味を確認した上で、それをを用いた問題を解くことが確かな理解につながります。例えば、範囲の意味を理解できるようにするために、範囲とは、資料の最大値と最小値との差であることを確認した上で資料の散らばりの程度を捉える活動を取り入れることが考えられます。

△事象や関係などを的確に捉え、理由や方法を数学的な表現を用いて説明すること： B 2(3) 【14.1%】

2 次の図のようにストローを並べて、六角形をn個つくるのに必要なストローの本数を考えます。



例えば、六角形を3個つくるのに必要なストローは16本です。



次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(3) 図2のように囲み方を変えてみると、六角形をn個つくるのに必要なストローの本数は、 $6 + 5(n - 1)$ という式で表すことができます。六角形をn個つくるのに必要なストローの本数を表す式が $6 + 5(n - 1)$ になる理由について、下の説明を完成しなさい。



図2

ストローを図2のように囲むと、

したがって、六角形をn個つくるのに必要なストローの本数を表す式は、 $6 + 5(n - 1)$ になる。

【正答の条件】 次の(a)、(b)、(c)について記述しているもの

- (a) 囲まれていないストローの本数が6本あること
- (b) 1つの囲みにストローが5本ありその囲みが $(n-1)$ 個あること
- (c) 必要なストローの本数は、囲まれているストローの総数と囲まれていないストローの本数の和であること

解答を書いているが、表現が不十分であったり、説明の筋道が正しくなかったりする解答が約66%でした。例えば、囲みの個数を捉えることができなかったと考えられます。

【学習のポイント】

事柄の意味を事象に即して読み取り、読み取った意味に基づいて、根拠を明確にして説明できるようにすることが大切です。6や $(n-1)$ などが何を意味しているのかを読み取る場面を設定した上で、説明する活動を仕組むことが考えられます。

### 3 生活・学習状況に関する結果

#### (1) 児童生徒質問紙の結果（概要）

##### ① 望ましい状況

- ・「自分には良いところがあると思う」と回答した児童生徒の割合はどちらも約80%で、全国と比べて高い。また、「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童生徒の割合も全国と比べて高く、特に児童の割合は85%を超えている。
- ・地域の行事に参加したり、地域社会などでボランティア活動に参加したりする子どもの割合は全国と比べてかなり高い。
- ・授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う子どもや、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行ったと思う子どもの割合は、全国と比べて高い。

##### ② 課題が見られる状況

- ・平日に1時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする子どもの割合は、全国と比べて低いものの、増加傾向が見られる。
- ・平日（学校の授業以外）や休日に1時間以上勉強する子どもの割合は増加傾向にあるものの、2時間以上勉強する子どもの割合は、全国と比べて低い。平日に読書をする子どもの割合は、全国と比べて高いものの、「全くしない」と回答した子どもの割合が、依然として高い傾向が見られる。

#### (2) 学校質問紙の結果（概要）

- ・子どもに学級やグループでの話し合いや発言、活動の時間を確保した授業を行っている学校の割合は、全国と比べて高い。
- ・学校全体の学力傾向と課題を教職員間で共有している学校や、全国学力・学習状況調査と県独自の学力調査の結果を併せて分析し、教育指導の改善や指導計画への反映を行っている学校の割合は、全国と比べて高い。また、分析結果について、近隣等の小・中学校と成果や課題を共有した学校の割合も、全国と比べて高い。
- ・調査結果を保護者や地域に対して公表・説明している学校や、学校支援ボランティアの仕組みにより保護者や地域の人たちが学校の教育活動等に参加する学校の割合は、全国と比べて高く、増加傾向にある。地域等の外部資源を含めた人的・物的資源を、教育内容と組み合わせて、指導計画を作成している学校の割合も、全国と比べて高い。

### 4 今年度の成果と課題を踏まえた本市の取組

#### (1) 授業改善の継続と充実

- 小中学校全教職員に、「萩市重点取組事項チェックリスト」を配付し、見通しがもてるめあての提示、板書の工夫などの授業改善に取り組む。
- 年2回の検証改善サイクルにおいて、各校で具体的方策を共通理解し、全校で実践する。
- 学力向上推進リーダー・推進教員、英語教育推進教員の訪問日に校内研修を開催したり、授業前の相談や教材研究を充実させたりすることにより、授業力向上を図る。
- 学習したことを繰り返したり確かめたりする時間や、学習したことを用いて他の課題や他の場面に適用する時間を設定するなど、授業の中で習熟を図る時間を設定する。

#### (2) 家庭と連携した学習習慣づくり

- 各校から配布されている「家庭学習の手引き」等を参考に、家庭学習の習慣化を図る。
- テレビやゲーム等のメディアの使用について見直し、家庭での読書活動も推進する。